

## Y26a 教員向け研修事業の実践と課題について

茨木孝雄, 羽村太雅, 内藤誠一郎, 他 (国立天文台)

夜間の天体観察をはじめ直接体験がしにくい小学校理科天文分野の授業は、少なからず苦手意識を持つ教員が多い。また中学校理科においても、天文学や天文教育を専攻した教員は数少ないため同様な状況にあるが、各地の教育センター等で観察実習を含む教員研修テーマとして実施されている例は少なく、指導に際して苦労を伴う分野のひとつとなっている。

そこで、特に理科または天文分野に苦手意識のある小中学校教員を対象に、国立天文台野辺山宇宙電波観測所ならびに羽村市自然休暇村（山梨県北杜市高根町清里）にて『理科授業のための天文セミナー 2015 高原で学ぶ宇宙』と題する小中学校教員合同の研修講座を開催した。

教員が参加しやすい夏季休暇期間の中で、8月11日-13日のペルセウス座流星群極大の時期に合わせた2泊3日の合宿研修として募集を行い、関東圏を中心に全国から36名の参加を得た。帰校後に天文学の魅力を最大限に伝えられるよう、参加者自身が楽しめる内容を組み込むと共に、授業ですぐに役立つ知識や技能の習得を目指して、電波観測設備の見学、星空と流星群の観察、望遠鏡操作実習、授業案の検討とそのグループ発表会など合計11テーマの研修が実施された。

本発表では、終了後の参加者を対象に行ったアンケート調査の結果を踏まえて、国立天文台が手がけた教員研修事業の意義と今後の課題に関する検討結果を報告する。